

サポートツール全国キャラバン2010「教材教具研修会」in 徳島

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた  
指導・支援の具体的方法

**研修会報告書**

2011年2月6日

あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)5F 小ホール

主催:特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催:あおぞら

## 【研修会開催趣旨】

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育が法的に位置づけられた。小、中学校での支援が本格的に始まり、LD等の発達障害がある児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

### 発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）

<http://www.jpald.net/research/index.html>

2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、具体的な教材・教具の活用方法についての研修会を開催する。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めている。

昨年度は2009年11月1日新潟市、2010年2月21日佐賀市にて教材教具研修会を開催、今年度は2010年5月30日に秋田市、2010年11月21日岐阜県大垣市において開催し、講演とワークショップというプログラムや具体的な指導方法の提案が大変好評で、開催後のそれぞれの地域活動に結びつき始めている。

今回の徳島市での開催は、徳島の親の会「あおぞら」が中心になって準備を進めた。学校現場で指導にあたる多くの小学校教員と徳島県の作業療法士など多方面における専門家と連携し、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくために、身近な教材・教具を活用していく具体的サポート例を提示する研修会を企画した。



## 【研修会開催要項】

日 時：2011年2月6日（日）10：00～16：30（9：30受付）

会 場：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）5F 小ホール

〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地

### プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」  
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

（特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・  
堺市特別支援教育専門家チーム・堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員）

- 2、講演2 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師 嶋谷 和之 氏

（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター・  
大阪市更生療育センター作業療法士・大阪府作業療法士会発達部門副代表）

- 3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」



主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催：あおぞら

後 援：徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、一般社団法人日本LD学会、  
社団法人日本作業療法士協会、日本感覚統合学会、徳島県作業療法士会、  
徳島新聞社、四国放送株式会社

事務局：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 パロール代々木415

TEL/FAX：03-6276-8985 E-MAIL：jimukyoku@jpald.net

URL：http://www.jpald.net/

## 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、様々な職種の方々の観点から講演が有効であったという感想をいただいた。また、これを機会にそれぞれ関わる子どもたちに対して、支援を考えていきたいという積極的な感想もいただいた。

講演とは、離れるが会員のお子さんの中学校二年の女の子に対して、その子どもさんの学習困難の要因や勉強するときの気分について解説し、その上で学び方をアドバイスする時間をもつことができた。お父さんと一緒に熱心にきいてくださり、後日子どもさんがやる気になって学習に取り組むようになったとの連絡を頂いたのも大きな収穫であった。



# 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

嶋谷 和之 日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター  
大阪市更生療育センター 作業療法士  
(社)大阪府作業療法士会 事業部発達部門副代表

## ねらい

普段私たちは、何気なく姿勢を保ち、運動を行い、手を使って物や道具を扱っているが、これらはほとんど意識されることなく自動的に行っていることが多い。そのため、感覚運動機能を背景的な要因とする子どもの困難に気づきにくい、分析しにくいという場合も少なくない。

今回の研修のねらいは、以下の2点である。

- ・普段何気なく行っている活動を意識化し子どもの困難と重ね合わせることで、子どもを理解し手立てにつなげるきっかけとする。
  - ・すぐにできる物や道具の工夫で、子どもの活動がより行いやすくなることを知っていただく。
- また、感覚運動機能の観点からの子どもの見方を説明し、後で行う事例分析のワークにつなげることも目的とした。

## 内容

- ①作業療法士の視点について説明を行った。
- ②感覚運動機能について、以下の2点についてより具体的に説明した。
  - ・安定した姿勢が保証されて、効率よく手を使い物や道具を操作できることを説明した。
  - ・感覚情報は食物と同じように、人間が生きていく上で必要な栄養素であると捉えることも可能である。子どもに必要な感覚情報を、日常生活の中に溶け込むように提供していくという視点を説明した。
- ③大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」から、「よくある相談」のいくつかを紹介し、困難の要因と手立ての例を説明した。紹介した「よくある相談」は、以下のとおりである。
  - ・姿勢の保持が難しい
  - ・筆圧が強すぎる、弱すぎる
  - ・食べこぼしが多い（箸がうまく使えない）
  - ・はさみや定規がうまく使えない。
  - ・なわとびができない。
- ④事例を通して子どもの困難、背景的な要因、手立てを具体的に説明した。
  - ・姿勢の保持に困難のある事例。低緊張に加えて、自分の身体の状態を把握しづらいたことが背景的な要因。滑り止めシートを座面に敷くと臀部の前ずれは改善するも、左右への崩れに対しては改善が認めにくくハートリーフクッションが必要と考えられた。
  - ・椅子を動かすことが多く、座面の縁で座りたがる事例。圧や運動感覚の欲求が高いことが背景的な要因。感覚の欲求を満たすことができるよう座面にクッションを付けると安定して座ることができ、授業をより集中して受けることができた。
  - ・鉛筆がうまく持てず書き続けると疲れる事例。手指の巧緻性の未熟さと触覚の分かりにくさのために、三指では細い鉛筆をしっかり持つことができず、代償的に四指で力を入れて持ってい

ることが背景的な要因。三角の鉛筆グリップを付けることで、鉛筆との接点が増え、鉛筆を捉えやすくなった結果、三指で鉛筆を持つことが可能となり疲れずに書くことが可能となった。

- ・指先で箸を操作できずクロス箸になり、何度もつまみ直しをしている事例。手指の巧緻性の未熟さが背景的な要因。子どもに応じた補助具をつけることで、指先で箸を操作してつまむことができるようになった。

⑤子どもが努力して物や道具の操作を行っている場合、出やすい運動のサインを説明した。このような反応を捉えることで、子どもの努力を認めることができること、過剰な負担をかけることがないような工夫や細かな段階付けにつながっていくことを説明した。

⑥教材教具を展示した。ちょっとした工夫で活動がより行いやすくなることを体験していただいた。

#### 【展示物】

- ・斜面台
- ・ハートリーフクッション
- ・滑り止めシート
- ・滑り止めを貼った定規、分度器
- ・紙の下に滑り止めシートを敷くことで、コンパスが操作しやすくなる工夫例
- ・滑り止め加工した三角鉛筆
- ・太い三角鉛筆、色鉛筆
- ・各種の鉛筆グリップ
- ・自由樹脂で加工した鉛筆グリップ
- ・消えやすい消しゴム
- ・工夫を施した箸
- ・バネ付きのはさみ
- ・とび縄の工夫
- ・大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」
- ・感覚統合関連の書籍

参加していただいた方のアンケートを見ると、一人ひとりの特性に応じた環境調整の重要性、見えにくいつまずきに気づけるよう大人の感度を上げることなど、講演内容の重要なポイントがアンケートに書かれてあり、ご理解をいただけたのではないかと思います。子どもの理解と支援にあたっては、いろいろな視点で多角的に捉える必要があると考える。作業療法の視点が子どもの理解と支援にお役に立てることができれば幸いです。



## ワークショップ 報告

ワークショップでは、講師の指示により、ひとりの小学校1年男児の体の動きや様子のビデオと書字プリントを見て、この子にはどんな特徴（特性、困難）があるのかを読み取り、また、どんな対応（支援）ができるのかをグループで話しあった。その後、グループごとに討議の成果を発表し、それらを踏まえてふたりの講師からなるほどどうなづける的確な助言や解説があった。

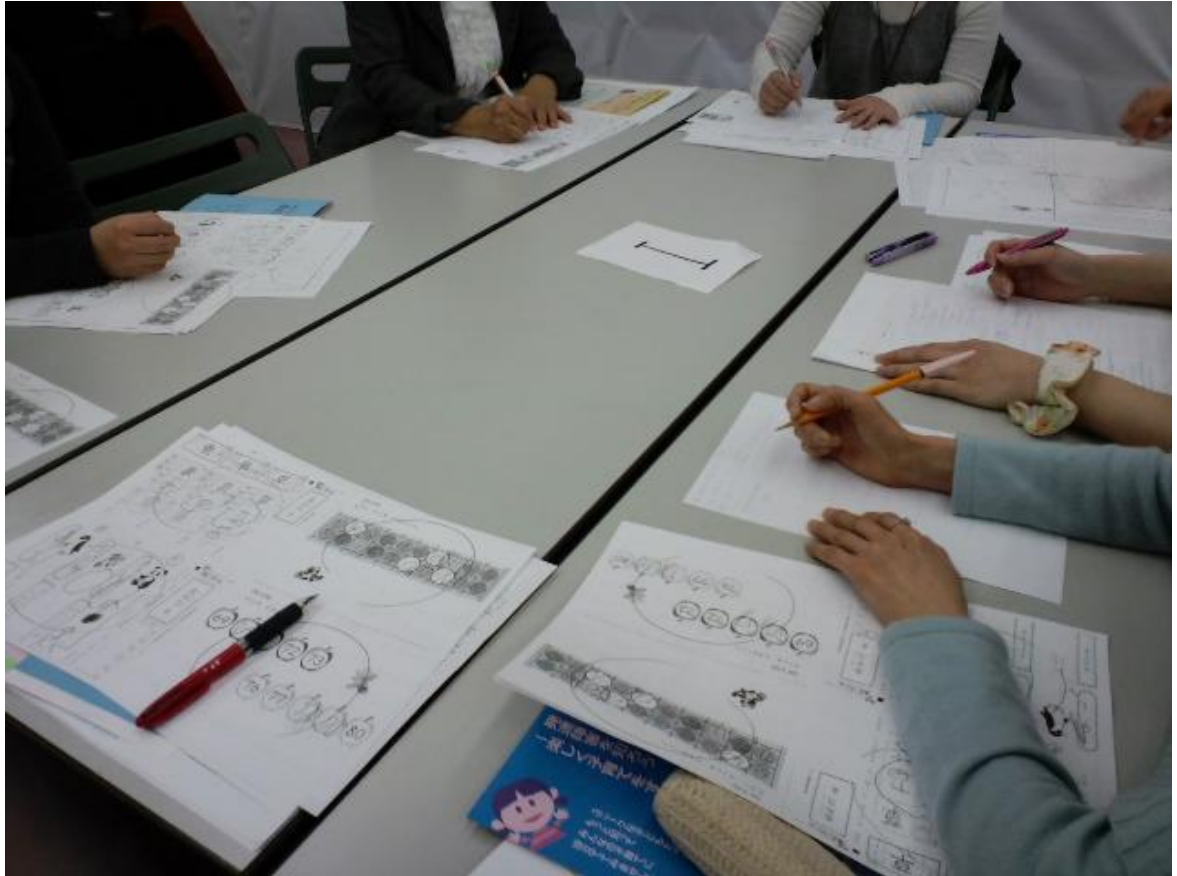
その子の特性をしっかりとつかむことがまず重要なこと、その後続く適切な支援とは、その子の特性に対応した的確なきめの細かい複数の課題設定、プラス根気強い日々の柔軟な継続支援の賜物だと印象づけられた。支援者のスキルもさることながら、そのような課題解決を支えるのが、教材や教具であり、その子にピタリと合ったときのサポート力に驚く。姿勢やお箸、鉛筆の持ち方だけでなく、落ち着いて学習に取り組む気持ちまで直接影響を及ぼす力がある。このような大から小までのさまざまなサポートツールは本当に地味な縁の下の力持ち。発達障害支援が更にラクに便利になるよう、もっとみんなが知って活用が広がってほしいと強く感じた。

今回の参加は保護者、教員が多く、他に保育士、作業療法士、言語聴覚士、福祉職員、大学（院）生など。1グループほぼ8名ずつの10グループで、さまざまな立場の方が顔合わせし、どのグループも活発に意見を交わしていた。保護者も参加したこのような意見交換の場は、徳島では今までになかったと思われる。日頃発達障害児に向かいあっている方々が集って、ひとつの課題に知恵を絞る一体感は大変新鮮に感じられた。このグループワークを通して、チームとして協働することが支援のスキルアップ、パワーアップにつながるという思いをもたれた方は多いのではないだろうか。

まだまだ後発の部分も多い徳島の状況ではあるが、このように集って学ぼうとしてくださる熱心な方々の存在に励まされて、それぞれがそれぞれの立場で今後も前に進めたらと思う。おふたりの講師も本当にありがとうございました。

(大島)







# 【アンケートのまとめ】

回収 56 枚 / 参加者 79 名 原文のまま

- (1) 保護者 12 枚 (あおぞら会員 4 枚、その他 8 枚)
- (2) 教員 28 枚 (小学校 21 枚、養護学校 5 枚、その他 2 枚)
- (3) 作業療法士 5 枚 (医療 2 枚、福祉 2 枚・療育 1 枚 (うち 1 枚福祉と療育重複)、その他 1 枚)
- (4) その他 11 枚 (保育士 2 枚、学童指導員 1 名、塾講師 1 名、ヘルパー 1 名、報道記者 1 名、大学(院)生 4 枚、その他 1 枚)

## 【講演 1】

### ◎ 保護者 (あおぞら会員)

- ・ 子どもが学習していく上で、問題点を見つけその原因を調べてから対策を考えていくといった子どもの特性に合わせて学習していくことの大切さがよくわかりました。やり方によって子どもの力を伸ばすことができると実感しました。
- ・ 症例を挙げながら、具体的に支援の仕方を教えて頂いたので、すごく分かりやすかったです。一番聞きたかったポイントについて解説して頂いたので、これからの子どもに対する態度が取りやすくなりました。取り入れるといい本 (教材) の紹介もとても有難かったです。
- ・ とても勉強になりました。又、購入しようと思っているものもあり、これからは活かせればと思います。どうもありがとうございました。
- ・ 不思議な 4 人の子ども達の説明に目からウロコでした。これまでぼんやりとしかわからなかった事がピタリとわかったようなスッキリさでした。そして、たくさん子ども達が本当に学びたいのに学べない状況にあるのがよくわかりました。支援が広がる事を望みます。お話サイコロもよくわかりました。

### ◎ 保護者 (その他)

- ・ ひとつひとつ具体例があり、わかりやすかった。実際に子どもがどのタイプなのか見極めが難しいので、個別に相談にのってもらえる機関 (人) があればいいです。
- ・ 具体的に学ばせていただいてありがとうございます。やはりセオリーは大切なんだとよくわかりました。一見ムチャのように思っても、必ず要めがあるんですね! あきらめず 1 つずつむきあってみます。ありがとうございました。
- ・ 自分の発想にない個々の子ども達たちへの支援方法や教材を沢山知ることができてよかった。
- ・ 初めての参加で発達障害の種類、又各々の障害に対する対処法があるということが勉強になりました。
- ・ 自分の子どもにあてはまる例があり、とても参考になった。ここまで 1 人 1 人の特徴をつかんで指導している方々がいることにおどろいた。問題行動には必ず理由があるということから必ずその子に合った方法があると確信できた。現場の様子が目の前に浮かんでくるような具体的な内容ですばらしかった。
- ・ 具体的な例題もありとてもわかりやすく、早速実践してみようと思いました。うちの子は年長で今春小学校に上がる 6 才男児です。LD があるかどうかわかりませんが、多分、あるだろうと思っています。もしなかったとしても、きっと、彼の今後に役立つ話だと感じました。
- ・ 色々な事例をもとに、分かりやすく教えて下さったと思います。ぜひ又徳島に来ていただいて講演していただきたいです。ありがとうございました。

### ◎ 教員 (小学校)

- ・適切な支援をしていくことが必要であるとわかりました。総合的なアセスメントの必要性を感じました。
- ・大変わかりやすく、具体的な話で、良かったです。ありがとうございました。特に子どもたちの事例を出して話していただいたのがわかりやすかったです。多くの教材等を教えていただいたので、ぜひ使用したいと思いました。
- ・子どもさんの実態、まちがいの分析から学ぶ支援を考えることが大切だと思いました。なんで、こうなるのか、なんでまちがうのか、と考えていこうと思います。
- ・すぐ実施できる支援がわかり、参考になりました。
- ・何度かお話をきかせていただいているので、よくわかった。紹介していただいた教材等使わせていただいている。どこに困難があるのかしぼって、支援をしていく技量を身につけていかなければいけないと思った。
- ・子どもの姿が見えその子の特性に合った有効な指導・支援の方法が具体的に分かり、大変有意義な講演でした。明日からの指導にすぐに活かせる内容で助かりました。日ごろ悩んでいたことにぴったり合った内容でした。
- ・いろいろな教材を特性に合わせて紹介していただけたことと、その教材が実際に目で見ることができてよくわかった。(持ってきていただいていたありがとうございます。)
- ・よくいる支援のいる子どもたちに対する具体的な支援の仕方がわかり、よかった。
- ・実践事例から具体的な支援方法を話していただき、現状の悩みとマッチする部分が多々あり、大変参考になった。
- ・具体的な事例をあげながら話をしてくださり、今担任している子ども達にも当てはまることが多く、とても参考になりました。とてもわかりやすくてよかったです。
- ・たくさんの子どもの事例に、当てはまる子がたくさんおり、どうしたら課題が克服できるのか、手がかりになった。
- ・いろいろな教材を紹介しながらそれぞれの事例について支援の方法を教えて下さったのでよく分かりました。
- ・大変わかりやすいお話で勉強になりました。子ども達の例も自分の学校の子どもにおきかえて考えることができ、具体的な支援の仕方を今後考える手立てとなりました。時間がもっとあれば、先生のお話をもっともっと聞きたいと思いました。
- ・具体的なあすからすぐ使える例をたくさん知ることができ、とても参考になった。
- ・具体的な考え（とらえ方）とそれに応じた支援を教えてくださいました。今日の視点をとりいれて実践したいです。
- ・具体的で様々なケースの例があり、たいへんわかりやすかった。教材が実物として提示されていて実際に手にふれることのできるものも多くありがたかった。
- ・教材の使い方を説明してくださってうれしかったです。事例をまじえて話してくださったので、原因の考え方で新たな発見がありました。
- ・発達障害について実践したことなど色々な例を交えて話しをしてくださったのでわかりやすかった。

#### ◎ 教員（養護学校）

- ・具体的な事例をあげて、困難の原因や教材を伝えていただき大変参考になりました。診断は出ないけれど、その特性をもった周辺の子ども達について周囲の共通理解を図っていくことについては、客観的に根拠を示し、また原因に応じた方法で成果を上げることが必要なので、スキルが必要なあと感じています。(あおぞらサポート会員)
- ・山田先生のお話は、いつも具体的なので、すぐに取り入れたり、参考にしたりできます。
- ・とてもわかりやすく、かかわりが理解できました。原因をつきとめてアプローチをするとよいこ

と、「症状」にとらわれすぎず「原因」をみつけて、かかわっていこうと思います。

- ・ 障がいがあるなしにかかわらず、子どもが困っている部分への支援を分析して進める必要性を感じた。(障がい特性について知っておくことは大事だが・・・)
- ・ よくわかりました。教材のお話はもっとききたいと思いました

#### ◎ 教員 (その他)

- ・ 単なる講義に終わらず、実践現場で、効果のあった方法をたくさん、提示していただいたので、非常に勉強になりました (あおぞらサポート会員)
- ・ 口ぶりにユーモアがあって内容が入りやすかった。(児童福祉施設)

#### ◎ 作業療法士 (医療)

- ・ 学習の中に現れる問題ひとつひとつに対する指導や教材の工夫がたくさん紹介されていて、参考になりました。また、問題となっている現象の背景をしっかりと評価することの大切さも話して下さっていたと思うので、よかったですと思います。(単なる how to にならないために)
- ・ 実際の子どもの症例と支援の方法をわかりやすく説明して頂きました。担当の子どもにあてはまるが多かったので、取り入れていきたいと思いました。(ひのみね総合療育センター)

#### ◎ 作業療法士 (福祉)

- ・ 実例を通しての講演で、とても分かりやすかった。(療育にも該当)
- ・ 事例に対し行われたことがとても分かりやすかったのでよかったです。もっと聞きたいと思いました。

#### ◎ 作業療法士 (その他)

- ・ 具体的な症状、改善策が示され、とても分かりやすかったです。また、「ルール」の考え方がとても納得できました。(教育機関)

#### ◎ その他

##### ○保育士

- ・ 子ども達のつまずきや間違いの原因をさぐっていくことが、支援につながっていくのだということを経験から教えていただき、とても勉強になりました。原因をさぐっていくためには、幅広い知識が必要になってくるのだということを感じました。お話がわかりやすく面白かったのもっと聞きたかったです。
- ・ 事例をまじえながら具体的方法を教示して頂き、とても分かりやすく参考になりました。(知的障害児施設)

##### ○塾講師

- ・ 「目からうろこ」の事が多くて とても参考になりました。もっとお話が聞きたかったです。

##### ○ヘルパー

- ・ 障害の種類をつかみ、原因をさぐり、その子に合った対応をすることが大切。

##### ○大学生

- ・ 具体的にやることが見えてきてよかったです。たくさん参考物を持ってきて頂きありがとうございました。
- ・ 日常のちょっとした場面に発達障害的な特徴が表れているんだな、ということを知ることができました。ささいなことも、注意深く分析できる観察力を身に付ける必要性を感じました。
- ・ 事例中心の講演で、児童が抱えている困難と適切な支援がわかって勉強になった。自分が担任になったときに気をつけることや、自分にどんな支援ができるのかを考えながら聞いていました。

(4回生)

○大学院生

- ・ 事例も一緒に提示して下さり、非常に理解しやすかったです。子どもの特性を理解することが、有効な支援につながるのだと改めて実感しました。

○その他

- ・ おもしろかった。ためになった。人間理解の上でためになった。

## 【講演2】

◎ 保護者（あおぞら会員）

- ・ 子どもにとって適切なツールを見つけて使用してあげることが必要だと感じました。子どもも一生懸命がんばって疲れていることがあるのだとわかりました。できているかできていないかの結果のみを評価していたと反省しました。
- ・ 具体的に感覚・運動の事を教えていただき、今までの子どもを見ていた視点がガラリと変わりました。子どもは子どもなりの理由があって姿勢が保てなかったりするので、いろいろな視点から子どもの支援につなげていけたらいいな・・・と思っています。それとちょっとした支援で出来るようになる手助け方法も教えていただいてとても助かりました。
- ・ 姿勢保持の大切さも勉強になりました。購入しようと思うものもあり、これからは活かせればと思っています。どうもありがとうございました。
- ・ お箸やエンピツの使い方をこんなに詳しく聞いたことがありませんでした。そして、楽しく、やる気の出るサポートグッズの数々に感動しました。支援グッズを上手に使うことが大切なのだとわかりました。

◎ 保護者（その他）

- ・ 具体例がたくさんあって理解しやすかったです。子どもの苦手を早く見つけてその対処法を考え早めの解決に結びつけていきたいです。
- ・ はしやえんぴつ、ハサミなど、できないわけではないけど、不器用さがあつた部分について、まさに今日具体的に講演を伺い、早速グッズやハサミの穴を調整してみようと思いました。
- ・ 子どもの行動、行為には意味や理由があるので、合法的な対策（すべり止めマット等）の術を知ることができました。
- ・ 姿勢なども関係していることが、はじめて、分かりました。気をつけて見ていきたいと思います。
- ・ そのような教材があること自体知りませんでした。大変参考になりました。
- ・ ちょうど、えんぴつ、おはしで悩んでいたのも、早速、今日の方法をためしてみる。
- ・ えんぴつの事とか、とても勉強になりました。子どもの行為、行動に、すべて理由がある・・・という事、それをさぐるのはとても大変だなあ・・・と感じました。
- ・ 時間があれば、もっと多くの事例をもとにお話がききたいと思いました。分かりやすかったです。ありがとうございました。

◎ 教員（小学校）

- ・ 子どもたちの不器用さにも様々な要因があり、それに対するトレーニングやサポートツールがあることがよくわかりました。ツールを使ってストレスを減らすのと同時に、専門的なトレーニングで課題を解決していけるようにするのいいと思いました。
- ・ 氷山の一角で出ている現象が、水面下にいろいろな問題があり支援ができることがわかった。
- ・ 時間があまりなかったので、もう少し、時間をとって詳しくお話を聞きたいと思いました。ホームページのパンフレット、ぜひダウンロードしたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 新しいグッズをたくさん見せていただき参考になりました。また、少しのアイデアと工夫で、問

題行動が軽減できるなど思いました。(立ちあるく→イガイガボール等・足のうらを刺激する などなど)

- ・ 担当する子どもにすぐ対応できそうで参考になりました。
- ・ その子の困難さを助けてあげるツールをもっと使いたい。個別指導の場では使いやすいが、通常学級の中でさりげなく使うことが課題です。
- ・ サポートツールとして具体的な教具の提示はとても有意義で参考になりました。
- ・ 子ども達の苦手さが、いろんな機能の困難さによって生じていることがわかったのと、子ども達が生きやすい、活動しやすい環境等を、いろんなグッズを用いて、作ってやれるということがわかり、少しずつ、整えていきたいと思った。
- ・ 子どもを目線立場に立ってどうすればうまくいくのか、ということを見せてもらってよかった。
- ・ どこに原因があるか それに対して どういった支援が必要か 改めて自己認識の低さを感じたさらに 子どもの実態をよく観察し分析したい
- ・ 感覚運動機能に応じた教材教具の紹介をしていただき、便利(支援に役立つ)なものがあるのを知ることができました。使いたいものがたくさんありました。特にすべり止めシートって便利ですね。
- ・ 「発達障害のある子は、多かれ少なかれ感覚運動に困難さがあることが多い」ということを知り、その根本的な原因を見つけ支援することが大切だとわかった。「大人の思い」と「子どもの思い」のずれを知り、子どもの思いを考えて寄り添えたらと思った。
- ・ 子どもたちの苦手な部分を支援するため 教材教具を展示してくださっていたので分かりやすかったです。実際に使ってみたいものがたくさんありました。
- ・ ちょっとした工夫でずいぶんと 子どもの作業がやりやすくなる。できない部分を見たとき、気づいたときに、大人がどうすればいいか工夫してやる必要があるなあと思いました。ちょっとしたことも逃さず、考えていける大人でいたいなあと思いました。
- ・ 子どもに応じた椅子の工夫をためしてみたいと思いました。意識と無意識の話が興味深かったです。
- ・ すべりどめシートなど専門家ならではのグッズが紹介され、ぜひ使ってみたいと思った。
- ・ はさみやはしなど、実際によくある課題に応じて支援の仕方を取り上げてくださり、分かりやすかったです。
- ・ 姿勢があまりよくない子どもたちへ、どのような手だてがあるのかなど、教材の工夫などすごくわかりやすかった。

#### ◎ 教員(養護学校)

- ・ 姿勢・運動感覚等について、具体的な支援ツールや方法が聞けたことが大変参考になりました。(あおぞらサポート会員)
- ・ 写真が多く、支援像がわかりやすかったです。
- ・ 1つ1つの行為を分析すると、いかに複雑なことをつなげて動きが出されていることがよくわかりました。
- ・ 障がいがあるなしにかかわらず、支援グッズ、お助けグッズは必要なのかな?と思いました。身体の使い方、運動機能の使い方って大事なんですね。
- ・ 難しいことばをあまり使わずにわかりやすく話してくださりありがとうございました。

#### ◎ 教員(その他)

- ・ 思ってもいない様な、身近なグッズでも代用できるアイデアを提案して下さり、勉強になり、即実践できそうに思いました。(あおぞらサポート会員)

◎ 作業療法士（医療）

- ・ お子さんに応じて、課題がうまく達成できるための支援のアイデアが多く紹介されていて参考になりました。使う側に段階づけや工夫の余地がたくさんあってOTとして、できるだけその部分を大切に伝えていけたらと思います。
- ・ 道具の具体的な工夫（はさみ、椅子座位の人口芝・青竹ふみなど）をたくさん提案して頂き、参考になりました。（ひのみね総合療育センター）

◎ 作業療法士（福祉）

- ・ 環境整備→少しの工夫で子どもと大人の関わり方が変わってくると改めて感じた。本人の意思を尊重し、目的を明らかにすることが大切だと思った。（療育にも該当）
- ・ 普段自分が考えていることで、工夫の観点もとらえやすかったです。（考えが整理できました）

◎ 作業療法士（その他）

- ・ 感覚の重要性が、とても理解できました。できない事の要因を様々な視点から見ることが、参考となりました。（教育機関）

◎ その他

○保育士

- ・ 私たちが無意識に行っている動作のひとつひとつを細かく見ていくことの大切さを感じました。集団の保育のなかでは、先生が言われていたとおり、状態だけが目についてしまい、その状態の理由を考えて別の方法を考えてあげることができていないと反省し、とても勉強になりました。
- ・ 今まで以上に困難さと日々向き合っている子ども達のが分かりました。少しでも工夫して支援者や周囲の者も笑顔で関われる努力をしていきたいと思いました。（知的障害児施設）（講演1，2を通して：専門性の高い先生方には是非スーパーバイズできるシステムが欲しいです。）

○塾講師

- ・ 特別な道具を使わなくても、家で工夫すればできるので早速してみようと思います。

○ヘルパー

- ・ 主症状に応じた見えない感覚運動、安定性を考えた運動機能を高める必要性。

○報道記者

- ・ できないことや、苦手なことから、何かの行動に結びつく、逆に言うと、「何かの行動には、理由がある」ということが事例を通して改めて分かった。手遊びをしてしまうのではなく、止めさせてしまうのではなく、隠れて、手で何かをさわられるようツールを用意する、という発想があまりなかったのので、参考になった。この考え方を自分の中に落とし込こむには時間が必要だということも感じた。

○大学生

- ・ 他分野からの提言はとても参考になりました。
- ・ 姿勢が悪い、お箸がうまく持てないなどについて、その子に合ったサポートツールがあることを知ることができた。“何でできないの!?” とさじを投げたり、無理に直させようとするのではなく、子どもに負担をかけないやり方で、自然に身に付けさせる工夫をするのが大切なんだなと思いました。
- ・ 自分でからだを動かしている状態でも無意識に働いている部分があるからこそそのことなんだと気づくことができました。また、立ち歩いたりという行動にも刺激がほしいという理由があり、児童への支援の方法を発見することができました。（4回生）

○大学院生

- ・ 教具を扱う際の、支援者としての視点として、その子どもの持つ特性を踏まえた上での対応の重要性を感じました。1時間でなく、もっと長時間の聴講をさせて頂きたいと思いました。

○その他

- ・ おもしろかった。ためになった 人間理解の上でためになった。

【ワークショップ】

◎ 保護者（あおぞら会員）

- ・ 自分だけの意見ではなく、第三者の意見が聞けてとても勉強になりました。知らなかった知識もどんどん出てきたので、非常に興味深かったです。
- ・ 自分だけの考えだけでなく、班、またその後の講師先生の見解でいろいろある事が解りました。
- ・ ビデオ、プリントを通して具体的に支援の方法を考えたり、先生方の意見を聞いたりできて、役に立ちました。

◎ 保護者（その他）

- ・ 帰って子どもを見ながら実践してみようと思いました。講演を聞くだけでなく、ワークをすることで、よりわかり易くなりました。
- ・ 勉強になりました。
- ・ 対象への支援の仕方、環境への配慮、姿勢、緊張等、様々な面からの支援を知ることができました。
- ・ いろいろな意見が聞けて、良かったです。
- ・ 問題意識をもちはじめたばかりです。多くは発言できませんでしたが、参考になりました。
- ・ 具体例を通して実際に自分で意見を出すことで新たな発見ができた。書字の問題は、ルールを最初に決めることで先に進めるというのがおどろきだった。どうして自分の子どもがわくからはみだすのかがわかった様な気がした。
- ・ 我が子とリンクする場面も多々あり、複雑な心境です。テーブルには教育現場の先生がおられ、とても熱心にお話して下さった事が、うれしく感じました。
- ・ ビデオと、プリントで、とても分かりやすく、グループ内でもたくさんの意見を交換することができました。息子と少しタイプが似ていたのも、先生の解説もとても参考になりました。

◎ 教員（小学校）

- ・ 講演の内容と照らし合わせながら、話し合いができてわかりやすかったです。「ルールの理解」をさせることの重要性があらためてよく分かりました。
- ・ 実際の支援に役立つワークであった。巡回相談員をしているので、事例は大変勉強になった。
- ・ 皆さん方の意見をうかがって、また、先生方の指導をいただいて、大変勉強になりました。子どもの様子や学習の様子から困っていることの原因や支援を考える方法が少しわかりました。ありがとうございました。
- ・ いろいろな意見が出てすごく参考になりました。1つの実態をみても、いろいろな角度からみることができると感じました。いろんな角度から考えてみる。思考回路をきたえたいと思います。
- ・ 小グループでの話し合いは、話し合いに参加しやすく、最後には先生方の指導があり、わかりやすかった。
- ・ 具体的事例をもとに問題を探して、それに対する支援、解決方法を話し合ったことはとても有意義で勉強になりました。その後の講師の先生方の的確な指導が大変分かりやすく勉強になりました。
- ・ 他のいろいろな人の意見を聞くのは本当に勉強になる。
- ・ 課題には気づくが、ならばどこからアプローチすればよいかについて常日頃悩むところである。

講師の先生方の説明で今後の支援の方向性を探るにあたっての分析方法の検討についてヒントをいただきました。

- ・ 全員で、グループに分かれて討議する形式がよかった。それぞれに意見があって多の人の意見がすごく参考になった。
- ・ 事例のビデオ・ワークを見ながら、子どもの特徴を見つけ、それについて話し合うというワークショップは、初めて経験しました。午前・午後（前半）の講演を聞いた後だったので、特徴を見つけやすかったと思いました。また、いろいろな先生方と意見をかわすことで、自分の考えや他の先生方の考えも深める事ができました。その後お二人の先生のご助言でさらに支援の仕方についてわかりました。
- ・ ビデオに出てきた男の子の書字と本当によく似た特徴を持つ児童を担当しているのでとても勉強になった。ワークショップで話し合いをしているときに、私にはない視点から男の子の特徴を見ている方がたくさんおり、学校でも、先生方と、支援方法をいろんな視点から考えることの大切さがわかった。今回参加して本当によかったと思います。
- ・ 具体的な事例をもとに話し合いができるのでたいへん勉強になりました。
- ・ 一人の子どもの事例をグループで話し合い、意見を出し合い考えられたことがよかったです。また、先生方から教えられたことも多かったです。子どもの事例の中には、すぐに使えることも多くありました。一人の子どもにチームを組んで取り組んでいくことが大切だと再認識しました。
- ・ スモールステップで細かいルールを入れていくというのがよく分かった。あすからさっそく活かしていきたい。
- ・ OTさんの意見・保護者の方の意見を聞くことができてよかったです。

#### ◎ 教員（養護学校）

- ・ 多職種の方々と、話し合いができ違った視点からのご意見が聞けたことが有意義でした。（あおぞらサポート会員）
- ・ あっという間に時間がすぎました。いろんな方向から子どもを見ることの大切さがよくわかり、原因を確かめてアプローチしていくこともよくわかりました。

#### ◎ 教員（その他）

- ・ ビデオ動画での事例が、把握しやすく、問題点の抽出がしやすかった。また、その後の後評も具体的に理解できた。（あおぞらサポート会員）

#### ◎ 作業療法士（医療）

- ・ 他職種や、親御さんの立場の皆さんから様々な視点からの意見が聞けるので有意義でした。立場によって子どもに求めることも少しずつ違っているな・・・と感じました。
- ・ ビデオで症例を見ることができたので子どもの状態がよくわかりました。違った職種や、保護者と話し合うことができ、いろいろな視点から子どもの状態を把握検討ができてとても勉強になりました。子どものルール（はやく書く）に気づき、どうなってほしいかのルールを明確に示すことの大切さを学びました。ありがとうございました。（ひのみね総合療育センター）

#### ◎ 作業療法士（福祉）

- ・ ビデオと実際のプリントを基に他職種と、話し合いが出来てよかった。OTのみの考え方でなく、教員や保育士側からの意見が聞けてよかった。（療育にも該当）
- ・ 意見を多様な側面から聞くことができてよかったです。

#### ◎ 作業療法士（その他）



- ・ 事例の症状がビデオや教材で提示されており、考えやすかったです。又、グループのメンバーにお母さんがおり、とても具体的に日常的問題や症状を語って頂き、参考になりました。たいへん、生きたワークショップとなりました。ありがとうございました。(教育機関)

◎ その他

○保育士

- ・ ビデオが様々な場面を見せてもらえたので、いろいろな視点から見る事ができたと思います。いろいろな立場の方のグループだったので様々な話が聞けて良かったです。
- ・ 限られた資料をグループで検討することにより、いろんな視点からの発見・気づきがあり、とても有意義であった。その具体的見解を教えて頂き、少しでも 対象者の困難さを見きわめる力をつけたいと思いました。(知的障害児施設)

○学童保育指導員

- ・ 映像での事例であり、いろいろな人からの見方が学べてとても参考になりました。私の仕事の中で遊びはメインなので、その子一人ひとりの苦手なところをおぎなえる遊びができるように感覚統合などの専門的なやり方をもっと学習していきたいと思いました。「できない」ではなくて「できるようにする」ための補助具がたくさんあることにびっくりしました。多くのお母さん達に知らせてあげたいと思います。すべての子育てに役立つグッズだと思います。

○塾講師

- ・ 人によって観点が違うので視野が広がりました。検査結果がなくて、かえって固定概念に捉われずに話できました。

○ヘルパー

- ・ 初めての参加でした。みなさんのレベルの高さにビックリしました。1つのビデオからでもすごく問題点が見えるので常々の、観察の大切さを感じました。 ○報道記者
- ・ こういう風に、注意深く子どもの様子を見る事がまず重要なのだと感じた。また、不必要に叱ったりすることがないように、十分な知識と柔軟な考え方を身につけていくことが、周りの人にとって必要だと思った。

○大学生

- ・ めったに子どもさんの具体的様子が見られないのでよかったです。親ごさんに感謝します。
- ・ いろいろな方の意見が聞けて、自分では気付かなかった部分に気付かされたり、考えの交流ができて、勉強になりました。
- ・ グループで、1人1人意見を出し合い、細部に関する事も出て、勉強になりました。困難や問題点を挙げて、支援の方法も教えていただくことができて、今後役立つ経験ができたと思います。(4回生)

○大学院生

- ・ 具体的な事例の検討をもとに、他領域の方々の多様な視点を知ることができました。できれば、ネームプレート等で所属だけでも分かれば、職種による見方も話して頂きやすかったと思います。

○その他

- ・ おもしろかった。

